

教良木地区（上天草市）

小さな農村のみんな力を集結!! ~「教良木」パワーで生産力向上~



ビジョンの概要

地区の課題

- ・担い手の確保。地区内だけでは十分に確保できない。
- ・担い手不足による耕作放棄地の増加。
- ・収益性向上のための水田から畑地への転換。

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 幅広い農業展開のための機械整備

- ①畑作用機械（管理機等）を導入し、水田の畑作転換や施設園芸等、幅広い農業展開ができるよう整備を行う。

(2) 高単価作物の導入

- ①エリア内で高価格作物としてかぼちゃ等の露地野菜や漬物加工用根菜類（しょうが、にんじん等）を導入する。
- ②かぼちゃや漬物等の加工品を地域の特産品として位置づけ、道の駅等で販売する。

(3) 農観連携の実施

- ①特産品の販売や観光イベント等を通じて来訪者を増やし、地域の活性化を図る。
- ②多面的機能直接支払交付金や中山間地域等支払事業等を活用し、景観向上に努める。

成果目標

- ・かぼちゃ等露地野菜の作付面積を1.5ha増加させる。
- ・ウォーキングイベントや販売イベント等を年1回以上実施する。

ビジョン策定のプロセス

畑作転換で現状の課題を打開したい



農業所得向上を目的に

地区の現状を分析し、共通認識を持った。農業所得向上を目的とすることを確認し、その方針として畑作への転換について話し合った。

露地野菜の品種、場所を選定

露地野菜の作付について、その品種や、作付を行う圃場の選定を行った。また、農地整備について具体的方策を検討し、整備に向けた計画を立てた。

合意形成

農業振興ビジョンの内容について検討を行い、最終的な確認を会議参加者で行い、参加者の理解を得ると共に、ビジョン策定後速やかに事業を行うための具体的な圃場等の確認を行った。

具体的取り組み

(1) 幅広い農業展開のための機械整備

- 畑作用機械（管理機等）を導入し、水田の畑作転換や施設園芸等、幅広い農業ができるよう整備
→共同利用の機械で、ほ場の整備を行い、水稻に向かない土地を畑作に転換する準備を行った。
- ワンストップで学校給食米を納品できる環境を整備
→精米機、シーラーを導入し、直接納品する形で上天草市の給食に教良木の米を供給。地産地消・食育に寄与している。



(2) 高単価作物の導入

- 地区内で栽培できる高単価作物としてかぼちゃを導入
→かぼちゃの畑作は令和元年度の0.7haから、3年度は3.2haに拡大した。ただ、種苗費が高く、コストもかかる。栽培管理も負担が大きい。省力機械の導入などでコスト削減を図るとともに、労力を軽減し収益性を上げる必要がある。
- 酒米としての販路
→天草四郎観光協会が主体となり、教良木松浦地区の米1,800kgを原材料に、純米吟醸酒1,400本を醸造。天草初の日本酒としてリゾート施設や道の駅で販売され、好評だった。



(3) 農観連携の実施

- 観光イベント等での特産品販売で来訪者を増やし、地域の活性化を図る
→当初はウォーキング・イベント開催時にかぼちゃを販売し好評を得た。しかし、新型コロナでイベントが中止になり、販売ができていない。
- 教良木産米が、上天草市のふるさと納税の返礼品に
→現在もふるさと納税の返礼品に選ばれている。関東や関西からの申し込みもあり、地域を代表する特産米として魅力を発信。

成果

成果目標

- ・かぼちゃ等路地野菜の作付面積を1.5ha増加させる。
- ・ウォーキングイベントや販売イベント等を、年1回以上実施する。



結果

- ・かぼちゃの作付面積：
令和3年度3.2ha
- ・イベント：
1度はかぼちゃの販売を実施

※その後は新型コロナウイルス感染症の拡大により、イベント中止、または参加を見合わせ

今後に向けて

高単価作物導入の収益確保